

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第1回和文会誌分科会 開催日：3月5日。出席者：田中主査，ほか14名。

1. 28件の論文審査報告がなされ，掲載決定21件，修正依頼4件，その他3件であった。
2. 「鉄と鋼」第66年第8号（7月号）に論文14件，特別講演1件，掲載決定した。

第1回欧文会誌分科会 開催日：3月11日。出席者：橋口主査，ほか11名。

1. 12件の論文について審査報告がなされ，掲載可5件，照会後掲載可5件，修正依頼2件であった。
2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，1件の研究論文と，1件の Technical Report を勧誘することとなった。

共同研究会 製鋼部会

第75回部会 開催日：3月6日，7日。出席者：山本部会長，ほか115名。

日新・呉で開催した第75回部会では1件の特別講演のほか，従来通り自由議題，重点テーマの発表，および討議が行われた。

特別講演題目

「呉製鉄所の脱ガス操業について」

自由議題 発表件数 11件

連铸に関するもの 4件

その他 7件

重点テーマ 発表件数 6件

「連铸比率の拡大—生産性向上・多連铸技術等」

鉄鋼分析部会

第59回鋼中非金属介在物分析分科会 開催日：3月4日。出席者：成田主査，ほか16名。

鋼中硫化物の抽出分離定量法に関する研究についての第1回共同実験（Fe-Mn-S系試料）結果等の発表，討議が行われた。

1. 第1回共同実験試料の調製明細 1件
2. 硫化物形態観察結果 1件
3. 第1回共同実験結果 4件

原子力部会

第55/I回部会第2小委員会 開催日：3月10日。出席者：高橋小委員長，ほか12名。

研究報告と討論

1. 鼓胴型回転炉を用いる直接製鉄法の基礎研究
東大教授 相馬 胤和氏
2. 最近の還元鉄の状況
神鋼次長 西田礼次郎氏

3. 高温・高圧気固反応解析装置

東北大学教授 高橋 愛和氏

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第18回部会 開催日：1月22日。出席者：狐崎部会長，ほか16名。

1. ISO/TC17/SC1 幹事国引受けの件。検討の結果，引受けを前提として SC1 分科会において事務局体制について検討しておくことになった。

2. 1980年 ISO 会議派遣会社の選出。昭和55年 ISO 国際会議派遣会社案の説明があり承認された。

3. TC17, TC5, TC67, TC16 4の文書受理状況の説明。

4. 分科会活動状況報告。各分科会主査又は幹事から54年4月より55年1月までの ISO の審議状況及び主要問題点について説明があった。

第19回部会 開催日：2月8日。出席者：狐崎部会長，ほか14名。

1. TC17/SC1 幹事国引受け体制。第18回部会で SC1 分科会に依頼した幹事国引受けに伴う事務局体制について，SC1 分科会大規模幹事から詳細な説明があった。Secretary については常駐とすることになり，その資格や任期手続きについて検討した。

2. IEC/TC68 の概要について，水野・山南両幹事から説明があった。

3. 1980年 ISO 会議派遣会社の追加。

4. ISO 国際会議の日本開催計画。日本での開催が要望されている会議について，1982年までを目安に検討した。

第10回 EC 分科会 開催日：1月29日。出席者：山南主査，ほか12名。

1. スタンダードコードの成立を契機として，国際規格と国家規格の整合性が重要になったので，DIS 投票時に行う整合性の判定基準を作成するための基本的な考え方について討議した。

2. 山本委員から「国際規格案に対する ISO への回答書の作成要領(案)」について詳細な説明があった。検討の結果，判定基準を一部手直しし，各 SC 毎に整合性の判定について次回までに問題点を摘出することになった。また，整合性判定の SC 間の目合わせのため，しばらくの間，各 DIS の投票結果を当分科会へ報告することにした。

第11回 EC 分科会 開催日：2月27日。出席者：山南主査，ほか10名。

1. ISO と JIS との整合性。工業技術院の考え方も前回決定の判定基準の考え方とほぼ同様なので各 SC 分科会での整合性モデル案作成作業を引き続き進めてもよいことを確認した。

2. ISO と JIS の比較モデル。SC3, SC4, SC8, SC9, SC10, SC12, TC5 分科会について，モデル案作

成上の問題点について討議した。次回には SC1, SC7, TC164 分科会からもモデル案を作成することにした。

第 40 回 SC1 分科会 開催日: 1 月 28 日。出席者: 川村主査, ほか 7 名。

1. ISO/TC17/SC1 の審議状況の復習。第 8 回国際会議以降の進捗状況について調査した事項を検討した。

2. SC1 幹事国引き受け体制について。我が国が SC1 幹事国を引き受ける場合の体制についての案を検討し結果を 2 月 8 日の ISO 鉄鋼部会に進言することになった。

第 8 回 SC2 分科会 開催日: 1 月 23 日。出席者: 吉田主査, ほか 13 名。

1. 合金鋼の定義

Mo, Nb, Mo, Ti, Si, Al, B の反対理由付について検討した。なお Cr, Co, W, Cu, V については賛成することにした。

第 9 回 SC2 分科会 開催日: 2 月 22 日。出席者: 水野幹事, ほか 8 名。

1. CCCN 検討委員会報告。水野幹事から 2 月 20 日開かれた検討委員会の報告が行われた。

2. CCCN 検討委員会への要望に対し鉄連の新井氏より詳細な説明があった。

3. CCCN 日本コメントについて。事務局作成の日本コメント案及び、鋼管作成の CCCN 案に対するコメントをもとに検討を行い最終案を作成した。なお電気鉄板の定義は新日鉄、川鉄の 2 社に一任された。

第 30 回 SC3 分科会 開催日: 3 月 13 日。出席者: 山南主査, ほか 9 名。

1. N364 (板厚方向特性鋼板)

2. N366 (熱間圧延構造用鋼の形状・寸法許容差)

3. N363 (造船用鋼板)

4. DIN4952 (耐候性構造用鋼)

5. DIN4950/3 (高降伏点鋼-焼入焼もどし鋼)

以上について検討し、日本コメント案を作成した。

第 45 回 SC4 分科会 開催日: 3 月 14 日。出席者: 光島主査, ほか 10 名。

1. 国際会議報告

第 19 回 TC17 SC4 国際会議報告が行われた。

2. 次期国際会議の準備

合金鋼、炭素鋼について要求特性の優先順位コードの設定、表面品質規定水準、S 規定水準、ボロン鋼の追加規定、衝撃試験の U ノッチから V ノッチへの移行、製品分析許容変動値規定についての対応策を協議した。

また各 Part における ISO と JIS との整合性評価表作成分塊、エンジン用高温用鋼ステンレス鋼及び析出硬化型ステンレス鋼の問題点の整理を行った。

第 19 回 SC8 分科会 開催日: 3 月 11 日。出席者: 山岡主査, ほか 10 名。

パラレルフランジ形鋼

日本を含む各国のコメントを対比し、国際会議対策を協議した。

2. スローピングフランジ形鋼の寸法許容差

JIS との対比、国際審議の経緯を考慮しながら日本コメントを作成した。

3. パラレルフランジチャンネルの寸法

対応する JIS はないが、鋼構造協会でも検討した寸法

諸元を日本提案とすることにした。

4. 今後の作業計画

T 形鋼、六角棒鋼は ISO 化に賛成、鋼矢板、Z 形鋼は反対とする、なお八角棒鋼は生産状況を調査の上態度を決めることにした。

第 16 回 SC15 分科会 開催日: 3 月 5 日。出席者: 山南主査, ほか 9 名。

1. 会議開催状況 第 15 回分科会以降、国際会議に先立つて昭和 54 年 8 月 29 日、鉄道施設協会の主催による検討会が持たれた旨の報告が幹事よりなされた。

2. 第 8 回パリ会議の報告 出席者を代表して豊田氏 (トピー工業) から詳細な報告があつた。次回はパリで 55 年 8 月 23~24 日に開催される予定である。

3. N124 及び N125 の検討

鋼製枕木及びタイプレートの修正案について検討したが、英文テキスト送付後再度検討し直すことにした。

ボルトナットの審議は、鉄道施設協会に一任することにした。

第 24 回 TC5 分科会 開催日: 2 月 27 日。出席者: 日下部主査, ほか 11 名。

1. TC5 と TC17/SC19 の Scope の調整について TC17 事務局よりその経緯の説明があり、TC5 国際会議において日本のとるべき態度について討議した。

2. TC5 第 21 回国際会議対策として、議題にあがっているもののうち文書の来ているものについて、各議題 (構造用中空鋼・チャンファー・パイプサポートの規格化等) 検討した。

3. DIS 65 (ねじを切る鋼管の改正案), DTR6857 (鋼管フランジ呼称サイズ), TC5/SC10 の設立をそのタイトルスコープ案について検討した。

.....

第 73 回鋼管分科会 開催日: 1 月 25 日。出席者: 丸岡主査, ほか 16 名。

1. メカ 3 規格 (JIS G 3441 構造用合金鋼鋼管, JIS G 3445 機械構造用炭素鋼鋼管, JIS G 3446 構造用ステンレス鋼鋼管) に対するユーザ側の要望事項の検討。

シリンダー用として「曲がり公差」「内面キズ限度」及び「内径基準公差」について各社の運用の実情を調査の上、次回報告することとなった。

2. 自工会「自動車構造用炭素鋼鋼管規格(案)」の検討。

STKM のあり方について、「溶接鋼管 (ERW, CW)」と「継目無鋼管」とに製法別に 2 分割することを前提にして素案を作成し直すことにした。

第 74 回鋼管分科会 開催日: 2 月 27 日。出席者: 丸岡主査, ほか 13 名。

1. 機械構造用炭素鋼鋼管規格体系

JIS 機械構造用炭素鋼鋼管の改正に当り、自動車業界シリンダー管業界などの大手業界の要望を大幅に採り入れる場合、製法別、用途別規格体系に収めるかどうかを論議した。結局、現行の鋼種毎に、製造法別、熱処理別の需注量を調査の上、更に検討を進めることにした。

また標準寸法を規定するため、外径毎の肉厚寸法も合せて調査することになった。

第2回機械構造用鋼管 JIS 改正原案作成分科会

開催日: 2月6日. 出席者: 田中主査, ほか 23 名.

1. 機械構造用合金鋼鋼管

SCM418 を追加した以外改正素案通り決定した.

2. 機械構造用ステンレス鋼鋼管

特に意見なく改正素案通り決定した.

3. 機械構造用炭素鋼鋼管

強度ベース区分の要望が強いため, 例えば継目無管と溶接管に分けて規格化を検討し直すことにし, 鋼管メーカーで代案を作成し, 再検討することにした.

第6回硬さ試験方法 JIS 原案作成分科会

開催日: 1月24日. 出席者: 川田主査, ほか 18 名.

1. ロックウェル硬さ試験方法(第2次案), ショア硬さ試験方法(第2次案), ブリネル硬さ試験方法(第2次案)を逐条ごとに詳細に審議検討し, 今回の結果をもとに各担当委員が規格案を修正することになった.

なお審議経過報告書の作成を上田委員に依頼した.

ISO 事務局運営委員会**第3回委員会** 開催日: 1月25日. 出席者: 石原委員長, ほか 18 名.

1. ISO/TC17 事務局の下記案件が承認された.

(a) 54 年度事業報告, 55 年度事業計画

(b) 54 年度収支決算, 55 年度収支予算

2. 下記規程類が最終的に承認された.

(a) ISO/TC17 幹事国業務運営規程, 同説明資料

(b) ISO/TC17 幹事国業務運営規程専門諮問部会内規, 同説明資料

3. その他, 専門諮問部会委員長および委員の委嘱報告, ISO 事務局近況報告などが行われた.

ISO 専門諮問部会**第2回部会** 開催日: 2月20日. 出席者: 山南委員, ほか 17 名.

1980-02-04/05 にジュネーブで開催された ISO/MG 会議およびその後の各国訪問について報告, 質疑応答が行われた.

1. ISO/MG 会議

(a) TC5 対 TC17 work programme の調整

(b) INSM に対する各国コメントの処理

(c) PLACO/TAG-Metals 新設の動き

2. CCCN chapters 72 および 73

3. TC17/SC1 業務処理

4. 次回 TC17/EC 会議 (ストックホルム) の準備

5. その他

鉄鋼基礎共同研究会**高炉内反応部会****第10回部会** 開催日: 12月11日. 出席者: 大森部会長, ほか 22 名.

今後の研究方針に関し, 各委員の研究計画並びに全体の研究指針等が討議された.

次号目次案内**鉄と鋼 第66年 第7号(6月号) 目次「鋼材の表面処理」特集号**

「鋼材の表面処理」特集号に寄せて.....吉崎 鴻造

<電気亜鉛めつき>

Ni-Zn 合金電気めつき鋼板の耐食性 (論文)渋谷 敦義・栗本 樹夫・是川 公毅・野路 功二

高耐食性亜鉛-アルミニウム複合電気めつき鋼板に関する研究 (論文) ...吉原 敬久・木村 肇・原田 俊一

Zn/Mn 二層めつき鋼板について (論文)鮎沢 三郎・渡辺 孝・門 智

Zn-Co 系複合電気亜鉛めつき鋼板の耐食性に関する一考察 (論文)有賀 慶司・神田 勝美

亜鉛-鉄合金電気めつき鋼板の諸特性 (技術報告)三木 賢二・福塚 敏夫・梶原 和一

微量コバルトおよびクロムを含有した高耐食電気亜鉛めつき鋼板の開発 (技術報告)

.....松藤 和雄・安谷屋武志・大村 勝・小川 正浩

<溶融亜鉛めつきとアルミニウム被覆>

55%Al-Zn-Alloy-Coated Sheet Steel (論文)D. J. BLICKWEDE

連続式溶融亜鉛めつきの気体絞り制御機構に関する検討 (論文)

.....安谷屋武志・阿部 雅樹・庄司 政浩・矢野 秀勝

電磁ポンプによる片面溶融亜鉛めつき法 (技術報告)福塚 敏夫・浦井 正章・若山 健二

めつき阻止剤による片面ライン内焼なまし溶融亜鉛めつき法の開発 (技術報告)

.....後藤 実成・高村日出夫・藤田 芳則・原田 俊一

塗装した合金化めつき鋼板の耐食性 (論文)

.....三吉 康彦・吉田 勝可・生明 忠雄・金丸 辰也・門 智

新しい粉末法による Al 被覆鋼板の開発 (技術報告)濱田 元春・久保 浩士・原田 俊一

<有機被覆鋼板>

着色亜鉛鉄板 25 年の歩みと展望 (技術資料)高村 久雄・近藤 登